

フィリピン医療支援チームの活動概要 (その2：7月4日(月)～7日(木))

フィリピン医療チームは、7月4日(月)午後、休暇の予定を返上して、在日フィリピン人の求めに応じ、盛岡市内で面談を行いました。また、7月5日(火)、陸前高田市の仮設住宅と避難所を訪問し、震災で家や家族を失った在日フィリピン人及びそのご家族と面談しました。続いて、7月6日(水)には大船渡市のカトリック教会を訪問し、在日フィリピン人らと共にミサに出席し、その後面談を行いました。さらに7月7日(木)には、岩手県久慈市と宮城県気仙沼市において、在日フィリピン人との面談を行いました。同医療チームは、この4日間で合計102人に対して「心のケア」を行いました。



(陸前高田市にて。医療チーム一行と話す在日フィリピン人とそのご家族)

同医療チームは、震災後精神状態が不安定になって睡眠障害が出る、余震が起きるたびに震災時の恐怖が甦るといった相談を受け、これに対して、

このような症状が現れるのは自然なことであり、時間とともに快方に向かうはずである、精神状態が不安定な間は、アルコールやカフェイン等の摂取は控えるべきである等のアドバイスをを行いました。団長のマリア・パス・コラレス医師によれば、今回面談した在日フィリピン人及びそのご家族について、多くの方々が震災直後は精神的に不安定な状態に陥ったものの、現在では快方に向かっていると見受けられるとのことでした。



(岩手県久慈市にて。在日比人女性との面談を行う医療チームのアイダ・ムンカダ医師)